



ところが、そのようなユダヤ人を受け入れる国が2つあったんですね。1つはヨーロッパのオランダ。もう1つはイスラムのオスマン帝国。今日はオスマン帝国のお話をします。スペイン・ポルトガルから追放されたユダヤ人を、オスマン帝国のスルタンは喜んで受け入れました。スルタンはイスラム帝国のトップの王様。権威者・権力者です。ユダヤ人がイベリア半島から追放された時のオスマン帝国のスルタンはスレイマン2世(1642-1691)。

ユダヤ人は西側の情報をいっぱい持って来るんですね。西側の文化を知っていて事情通。様々な製造技術を持っておりスキルがある。これは得難い人材じゃないですか。だから「来い、来い」ということで、ヨーロッパで毛嫌いされているユダヤ人をオスマン帝国が積極的に受け入れたのです。受け入れるだけではなく、彼らに様々なチャンスを与え、信頼した者たちには非常に大きな責任や高いポジションを与えて重用していったんですね。

重用された人の中にヨセフ・ナシという人がいます。彼はポルトガルの有力なマラノー(改宗者)の一族に生まれた人でしたが、ポルトガルからもやがて追放されるんですね。スペイン追放から5年後に、ポルトガルからも追放されます。その後アントワープに行って銀行業を開業するんですが、これが当たったんですよ。大成功。大変な資産家、大金持ちになりました。今のベルギーのアントワープで良い生活をし、お金には全く不自由せず、そんなに迫害がなかったんですね。何しろ彼は改宗者ですから。

ところが、出世して生活は安定しているものの、どうも心が晴れない。人生は1回しかない。このままカトリックの仮面を被って生きていくことに対し、自分の内なる目覚めというか、内なる自分が窒息しそうな心境になって心機一転、人生をリセットするために、ユダヤ人であることを責められない所に行って一からやり直そう！それでオスマン帝国に移住したんです。

ヨセフ・ナシは非常に有名だし、色んな人の紹介もあり、スレイマン2世は彼と面会しました。知識の深さ、見識の高さ、ヨーロッパ事情に通じているだけではなく、銀行家なのでいわゆる財務や金融について、彼は非常に明るかったんですね。こんなに貴重な人材いないじゃないですか。彼は財政顧問・経済顧問と重用され、非常に高いポストにまで上がっていきました。スレイマン2世の息子セリムもヨセフ・ナシと話をし、その人格に感服するんです。

ある時スレイマン2世がヨセフ・ナシと話をし、彼の人生について聞く機会がありました。ユダヤ人としてずっと追い出され続けて来た苦難の歴史ですが、フランスにいた時に全財産を没収されたことをポロツと話したんです。「そんな辛いことがあったんか。それでどうなった?」「いや、そのままです。」「そうか。ちょっとわしが口利いてやるから。」「フランスよ、ヨセフ・ナシの財産没収したやろ。全部返せ。」フランスに要求を突きつけたらフランスは無視。拒否。

スレイマン2世はどうしたか? オスマン帝国の港に着いていたフランスの貿易船の積荷の一部を没収し、それを現金に換えてヨセフ・ナシに与えたんです。これってすごくないですか? 一個人が受けた被害に対して帝国のトップが口利きをし、相手が応じようとしなかった時、国家権力を使って強引に財産を取り戻すというね。この一点を見ると、ヨセフ・ナシというユダヤ人がどれほどオスマン帝国で重要視されていたのか、そして、ユダヤ人たちが重んじられていたのかがよく分かりますね。

スレイマン 2 世の皇太子セリムもヨセフにぞっこんだったと言いましたが、皇太子がやがて王になり、彼を貴族の地位にしました。その頃にはオスマン帝国の外交窓口のトップ、今なら国務長官・外務大臣のようなものですかね、そんなポストに就けたんです。

オスマン帝国は日の出の勢いでしょ。ヨーロッパは没落の一途なので、オスマン帝国とヨーロッパの国々が色んな所で衝突する時、ヨーロッパは「勘弁してください！もう少し譲ってください！」というような話が多かったのです。それをスルタンにお願いする時、誰を窓口にしたかというヨセフ・ナシ。

つまり、ユダヤ人たちはヨーロッパ中で支配者たちに散々弾圧されている。ユダヤ人を弾圧しているヨーロッパの支配者たちはオスマン帝国にいじめられ、何とか軽くしてもらうために、オスマン帝国の外交トップであるユダヤ人ヨセフ・ナシにすがりついていた。非常に皮肉なことでしたよね。

さて、スルタンはヨセフ・ナシにすごいプレゼントを与えます。「あなたの日頃の行いやオスマン帝国への貢献を考えた時、ぜひこのプレゼントを受け取ってもらいたい。」何だと思いませんか？

現在パレスチナと呼ばれている所、現イスラエル国家が存在している所、聖書ではエレッツ・イスラエルと言われているあの約束の地、その北の方にガリラヤ地方があります。そこに、イエス・キリストの時代にも存在していたテベリアという町があります。

「ヨセフ・ナシよ、テベリアをあなたにプレゼントしよう！」なんとイスラムの最高権力者が、ユダヤ人が約束の地を持てるように計らってやった。ヨセフ・ナシというユダヤ人に約束の地をプレゼントした。

プレゼントされたヨセフ・ナシはどうしたでしょう？

彼は同胞ユダヤ人に呼び掛けて、「オスマントルコは確かに迫害がないからいいけれど、やはり我々は先祖の地に住むのが良いのではないのか。神の約束の地に帰って、そこに住もうではないか。」ユダヤ人に入植を勧める働きを始めました。この働きは長くは続かなかったんですが、一時期そんなこともあったんです。

オスマン帝国はユダヤ人に多くのチャンスを与え、多くの立場を与え、約束の地の一部までも与えた。その結果、オスマン帝国はいったいどうなったんでしょう？  
次回後半では、その部分をご一緒に考えたいと思います。またお楽しみいただいたら感謝です。

またこのチャンネルでお目にかかりましょう。それまで皆さん、お元気で。さよなら！